

聖誕主日
説教

「永遠の命はインマヌエル」

<ヨハネによる福音書17:3>



金 武士 牧師 (大阪西成教会)

コヘレトの言葉3:11には、「神は… 永遠を思う心を人に与えられる」とあります。このところに人間と動物の大きな違いがあると言えます。しかし「それでもなお、神のなさる業を始めから終りまで見極めることは許されていない。」とも記されているところに人間と神との決定的な違いがあると言えるでしょう。

私は子どもの頃、真夜中にふと目を覚ましたとき、真っ暗な中で、この世界そして宇宙は永遠に続くのに自分はやがて消えてしまうのかとの思いに空しさを感じました。また、祭りや楽しいイベントが終わった後の寂しさが身にしみて感じられることがよくありました。

永遠に生きることはできない故の空しさと、孤独の故の寂しさは、本質的な次元でつながっているもののようであります。子ども心にもそのことを感じ取っていたのかもしれませんが。

ある少年が、琥珀（こはく）という高価な石は松ヤニが何万年もの間土に埋もれている間に化石になった物だと人から聞きます。そこで彼は誰にも気づかれぬように、松ヤニを土の中に埋めたのです。「後は琥珀になるのを待たばよい」。さて何万年も待たなければならぬのか。待つ気で普段通り過ごしたが落ち着かない。とうとう埋めたばかりの次の日に穴をほじくり返してしまうのです。一人の少年が初めは何万年もの時を考えながら埋めてみたけれど、たった1日で掘り出してしまふ。(この例話は加藤常昭牧師の説教集『タイによる福音書2』参照)これは人間誰しも共通する思いではないでしょうか。大阪城の天守閣正面の広場にタイムカプセルが埋められているのをご存じでしょうか。1970年に大阪で万博が開かれたことを記念して、当時の人々の生活上の様々な品物が、地下15メートルに上下に二つの金属製のカプセルに入れられ、5千年後の6970年に開封するという。ただし毎世紀の始めに上のカプセルだけ開いてみるという。それで2000年に一度開封され、次は2100年に開くとのこと。そのまま置いときゃいいのに辛抱できない。それが人情でしょう。

紀元2020年、これは永遠の神の世界から、神の子イエス・キリストがこの世界にいられたクリスマスの時を起点にし、再臨の時まで刻まれ続く年号であります。クリスマスはヨハネによる福音書3:16にあるように、私たちに永遠の命を得させるために神の子イエス・キリストがこの世にいられた日です。では永遠の命とは何なのでしょう。主イエスはヨハネによる福音書17:3で「永遠の命とは、唯一のまこ

との神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです」と言っています。イエス・キリストを知るといのは、深い人格的な交わりの中に入れられることを意味しているのです。つまり永遠の命とはイエス・キリストとの交わり、神と共にいるという、インマヌエルのことなのであります。

先ほどお話しした琥珀も何万年たったら美しい宝石になれるのだが、今は汚い松ヤニの固まりを見ながら、自分はこんな小さなはかないものでしかないと思うかもかもしれません。しかし、イエス・キリストを信じる時、瞬間にして宝石の値打ちを持つ物に変えられるのです。まさに永遠の値打ちを持つ物になる。もしも奇跡でも起こってあの少年が地中に埋めた松ヤニが、何万年の時を一瞬に経過して美しい宝石の姿を見せたとするなら、もう大喜びし、小躍りしながら掘り出し磨き上げたことでしょう。しかし、主イエスにあってはまさにその奇跡が起こるのです。主イエスによって救われるとはそういうことなのです。パウロはこのことを次のように言っています。「わたしたちは、このような宝を土の器に納めています」(Ⅱコリント4:7)。

パスカルは「人間の心にはどんなものをもってしても埋めることできない大きな空洞がある。それを埋めることができるのは神だけである」と言っています。私は始めに申し上げた、空しさ、寂しさにさいなまれた末、イエス・キリストに出会うこととなります。また、アウグスチヌスが神に向かって「あなたは私たちをご自身に向けてお造りになりました。ですから私たちの心はあなたの内に憩うまでは、安らぎを得ることはできないのです」と告白しています。私たちはときに虚無感や孤独感、不安や恐れに捕らわれ魂の渇きを覚えることがあります。そのようなときごとに、「わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る」というインマヌエルの命の水を飲むことが許され、不思議な平安と望みと喜びが取り戻され、内から新たな力がわいてくるのです。最初のクリスマスはあらゆる人がインマヌエルなる永遠の命の水の井戸の前に立たされた日なのであります。それから2千年の間様々なクリスマスがあったことでしょう。2020年のクリスマスは近年まれに見る寂しいクリスマスと思えるかもしれません。しかし、クリスマスの本質は、そのような空しさ、寂しさの中でその本領を発揮するインマヌエルの祝祭なのであります。

ルツ結婚相談所

在日韓国人・帰化人、結婚・再婚を望んでいる人へ
年齢 23歳~70歳まで、北海道から九州まで

親身になってご成婚までねばり強くお世話を
させていただきます。お気軽にお電話ください。

090-3429-9707 代表 崔貞淑

豊かな味、豊かな心。



妻家房

SAIKABO

代表取締役 呉永錫 (東京希望キリスト教会 長老)

四谷本店: 東京都新宿区四谷3-10-25 Tel. 03-3354-0100

多くの支えによって続けられた教会学校教師の奉仕

名古屋教会 姜順明 勸士

教会学校の教師の奉仕は、私にとってはかけがえのない生きがいでした。

もともと教師という職業に憧れていた私は、教会学校の教師という奉仕を通して、神さまの仕事をも自分もできる、という喜びが常にありました。

母や姉弟とともに平野教会に通っていた私は、高校生の頃から丁仁寿牧師任の勧めもあって、教師の奉仕を始めました。同時に聖歌隊や青年会の活動にも加わり、社会での窮屈さを忘れるかのように、充実した信仰生活を送っていたと思います。しかし、20代後半から、大きな生活の変化により奉仕からは遠ざかり、教会そのものにも足が遠のき始めました。

33歳の頃に兄弟のいる名古屋に移り、名古屋教会に行き始めましたが、積極的に教会の奉仕をしようと思っははませんでした。しかし、金光洙長老任、権仁淑執事任ご夫妻の強い勧めにより、36歳から聖歌隊、37歳からは教会学校の奉仕をするようになり、私の新しい信仰生活が始まりました。

幼稚科を長く担当していましたが、小学班、中等部もそれぞれ担当し、私なりの使命感と喜びで、常に全力で取り組むことができたと思います。

成長した元教え子が、「姜先生に教えてもらった『強く、雄々しくあれ』の聖句、今でも全部言えるよ」と声をかけられたりすると、本当に心から喜びが溢れます。ヨシュア記1章9節のこのみ言葉は、自分に言い聞かせてきたみ言葉でした。そのみ言葉をこれから人生が始まる幼い子どもたちに伝えてきたことは、きっと無駄ではなかったんだと思います。

中等部を担当していた頃、名古屋教会は中学生になると大人の礼拝に参加していました。スポンジのようにみ言葉や知識を吸収するこの時期に、彼らにふさわしい、彼らのための礼拝が必要でした。私はこの礼拝では必ず牧師がメッセージをしてほしいと切実に願っていましたが、黄義生牧師任の理解のもと、中学生礼拝が1991年から始まったことは、とても感慨深いことでした。

67歳まで教師として務め、その後は2、3ヶ月に1度、教会学校の礼拝の説教を担当していましたが、今年、80歳になることを節目に、すべての役割を終えました。青年時代と合わせ、約60年間続けてきた教会学校の教師の奉仕は、私にとって最も大切なものであり、人生でやりきったと思える唯一の活動だったと思います。

私は母(咸聖禮執事)のおかげで信仰生活を続けられました。慣れ親しんだ大阪を離れ、いっしょに名古屋に来てくれた母に、私ができることはいっしょに教会へ行くことくらいと、送り迎えするような気持ちで教会へ行っていました。実はそれは母が私を教会に連れて行ってくれていたのです。母が召された歳を越えた今、あらためて母への感謝でいっぱいです。また、44歳の時に再婚し、32年間連れ添った金光洙長老任、そして息子家族と、愛する家族の支えがなければ、続けることは決してできなかったと思います。

教会学校の教師という奉仕に出会い、これまで続けられたことを、心から神さまに感謝いたします。



マイノリティ宣教センターのスタッフとして

渡邊 さゆり 牧師

私は、2020年4月から、マイノリティ宣教センターのスタッフとして非常勤でお手伝いをさせていただいています、渡邊さゆりです。1月末からの新型コロナウイルス感染拡大に伴いマイノリティ宣教センターに多く寄せられた声は、日本に居住する外国人たちが、普段にもまして差別的な処遇に晒され、生活困窮、人権が著しく侵害されているということでした。一つ一つの声をまとめ上げることはできません。なぜならば、一人一人が個別の命で、人生の物語を生きているからです。しかし、日本の外国人への差別的な政策、それに無関心な日本人たちの有り様に、深い悔い改めと、抵抗の声を挙げていきたいと思っています。

私は2020年度、主にマイノリティ宣教センターの和解と平和のスピリチュアリティ開発部門のプログラムを担当すること、事務の補助を行うことを、神さまから与えられた使命と受け止めて、誠意にお伝えしたいと思っています。

これまで、私は、日本バプテスト同盟に加盟する個別教会の牧師、神学校の教員、そしてキリスト教学校の教師として働き場が与えられてきました。その中で気づかされたのが、

人権の課題の重さ、キリスト教会が地域の文脈の中で、もっとも弱くされる人びとへののちの福音を携え行動する必要性です。マイノリティ宣教センターの働きの中で、さらに学びながら、反差別の視座に立ち、信仰実践をしたいと願っています。センター開設から4年目の取り組みの中で、今年度は聖書セミナーを始動すること、マイノリティ人権白書の編纂が始まりました。

引き続きお祈りに覚えていただきたくよろしくお願いいたします。



総
会

総会役員会と懇談会開く 12月13日、臨時Zoom常任委員会招集

コロナ禍による感染が広がる中、総会は、2021年に開催される各教会の共同議会と各地方会定期総会の開催と総会常任委員会の開催の準備のために、11月22日～23日に大阪教会で懇談会、大阪北部教会で役員会を行った。

22日(主日)の夜には、大阪近郊の元総会長(鄭然元牧師、金武士牧師、金鐘賢牧師)と元副総会長(林英宰長老、尹聖哲長老)を招いて懇談会を持ち、コロナ感染により、教会と地方会、総会に与えられる課題を分かち合い、これらの課題をもとにして23日(月)には、大阪北部教会で役員会を開き、緊急事項を討議した。

2021年度1月頃の各教会の共同議会開催について、各地方会の定期総会開催について、4月に開催される第55-2回常任委員会に対して意見を調整し、来る12月13日(主日)午後5時に緊急に臨時常任委員会を招集し、懸案を上程することにした。



<年末年始業務案内>

総会事務局は年末年始下記の期間業務を休業いたします。
《2020年12月24日～2021年1月5日》

東京中央教会

安宰弘長老・許根浩長老 将立式を挙行

11月29日(主日)東京中央教会において、安宰弘、許根浩長老将立式が行われた。

堂会長の張承権牧師の司会で開会した礼拝には、関東地方会副会長の李明忠牧師による「長老の資格」(第1テモテ3:1～7)という題目の説教がなされた。

長老将立式には関東地方会長の金秉喆牧師の司式の下で、紹介と誓約、接手祈祷と宣布が出された。

この度、東京中央教会の長老として将立された安宰弘長老は、1970年韓国で生まれ、来日して2002年から署理執事、2010年から接手執事として奉仕した。家族は夫人と1男1女がいる。

許根浩長老は、1965年韓国で生まれ、来日してから2003年署理執事、2010年から接手執事として奉仕した。家族は夫人と1男1女がいる。



安宰弘長老



許根浩長老



安宰弘長老家族



許根浩長老家族

「父、尹宗銀牧師の思い出」～3周忌を迎えて～

神戸教会 尹聖哲 長老

家庭でも教会でも厳格な父でした。母が「父が呼んでいるよ」と言えば、叱られる時でした。牧師家庭の子弟はどことも同じだと思いますが、日曜日の子供たちの学校行事には両親とも来たことがありません。週報はすべて一人で手作り。ワープロのなかった時代に活字を1個ずつピンセットで拾って印刷機にはめ込み打ち込んでいました。必ず日本語の説教要約がありました。礼拝説教の口調が厳しく内容も難しかったので、私は居眠りをしていることが多かったのですが、説教要約だけは読んでいました。

母と二人だけの水曜祈祷会もありました。夏季休暇は平日に数日でドライブに連れて行ってくれたこともありましたが、日曜日に休んで講壇を他の牧師に渡すことはありませんでした。

父はクリスチアンの家庭に生まれ、16歳の時に牧師になるため渡日しました。工場で働いて学費を貯め、神戸神学院(神

戸中央神学校の前身)を卒業、母と結婚してから関西学院大学に編入、卒後大学院に進みました。当時の少ない牧師の給与のほとんどが父の学費で消えたと母から聞きました。さらに神学を学ぶため米国ニューヨークのユニオン神学大学院に留学し、聖書の研究を続けて、88歳に脳梗塞で倒れるまで信徒や後進のために本を執筆していました。

家族の誕生日には家庭礼拝をささげました。私たち子供が家を離れてからは直筆で聖句を書いた誕生日カードを送ってききましたが、正月には皆が集まって礼拝をささげました。晩年の聖句は決まって創世記12章1～4節でした。父は神様の召命を受けて祖国を後にしたのかもしれませんが、その後、公的な目的以外に祖国を訪問することはほとんどなく、両親の葬儀のために故郷に帰ることもありませんでした。徹底して在日のために在日であり続けたのだと思います。晩年は次々と病を患い、車イスとなって病院から施設での生活を余儀なくされましたが、不満の言葉は一言もなく、いつもにこやかにしていました。施設の中では優しいおじいちゃん、聖書の解き明かしをしていたようです。父は3年前に施設で突然肺炎になりその日に天に召されました。すべてを主にささげた人生で時が来たので主が取り上げられたのだと思います。



〈宣教委員会主催の「コロナ禍を乗り越え、ポスト・コロナ時代を展望するKCCJ」討論会主題講演〉

コロナ時代におけるKCCJ宣教の課題(中)

李元重 (京都市南部教会協力牧師)

3. コロナ19時代における我々の教会

1) 韓国教会の状況

第一に、昨今韓国の教会は、韓国社会の中で信頼を失ってしまった。2020年2月の「キリスト教倫理実践運動」の調査によると、韓国人の10人中7人、さらに宗教を持っていない人の8割が韓国のプロテスタント教会も牧師も信頼していないことが分かった。

第二に、このような現象がコロナ19以来さらに悪化した。特に、全光焄氏とサラン第一教会、8・15光化門集会の参加者の中で多数の感染者が確認されたが、政府の防疫指針と活動に非協力的であることが広く知られた。これによってプロテスタント信者以外の韓国人の多くはプロテスタント教会を非常識で利己的な集団として認識するようになった。プロテスタント伝道の道はほぼ遮断されてしまった。

第三に、韓国の教会はすでに急速な教勢の減少を経験しているし、その傾向は今後も続くだろう。大型教団の一つである大韓イエス教長老会統合側の2019年度の統計によると、2010年に比べて12.3%も減少した。各教会がコロナによって礼拝出席と献金が減り、活発な活動が不可能な現実を考慮すれば、来年はより大幅に減少すると予想される。

2) 日本教会の状況

日本の教会はどうなのか。日本の教会は、最大限の防疫に努めていると考えられる。多くの教会が、日曜礼拝をオンラインに切り替え、もしくは並行したり、礼拝時間を短縮したり、日曜礼拝以外の諸集會を休会するなど、感染拡大に徹底的に対処していると考えられる。

しかし、日本の教会も以前から高齢化および教勢の減少を経験していた。『キリスト教年鑑』の統計によると、日本キリスト教の教勢は、2010年度以来少しずつ減少している。日本基督教団の場合、1995年から2018年の間、信徒総数の20%、現住陪餐者の23.3%が減少した。特に日曜学校の生徒は58.2%も落ちている。コロナ19によって日本基督教団をはじめとする日本の教会もコロナ19以降に大きな教勢の減少を経験することが予想される。教勢の減少は単に教会と信徒の数が減ることにとまらない。戦後長い間、日本社会の良心的勢力、オピニオンリーダーとして活動してきた日本キリスト教の社会的影響力の損失につながるだろう。

3) 在日大韓基督教への影響

韓国教会と日本教会の教勢の減少及び社会的影響力の損失はKCCJにどのような影響を及ぼすだろうか。まず韓国の教会は、もはや過去のようにKCCJに宣教師を送ることができない。近年KCCJの牧師の中で韓国から派遣された宣教師の割合は持続的に増大してきた。今後宣教師が送られないと、KCCJに無牧教会が増え、場合によっては教会の閉鎖にもつながることも予想される。宣教師だけでなく、留学、ビジネス、結婚などの目的で日本に中長期居住する韓国人の数とその中のキリスト者の割合も減ることによって、KCCJも同様に教勢の減

少を経験することになるだろう。日本の教会の衰弱はKCCJが協力するパートナーの弱体化を意味し、KCCJがこれまでやってきた日本社会におけるシャロム(Shalom)への宣教も弱まる可能性が生じると考えられる。

韓国教会と日本教会の教勢の減少はまったく新しい現象ではない。しかし、コロナ19はこの減少傾向の追い打ちになり、伝統的な方式の伝道による教会形成と成長を非常に困難にしたことは明らかである。

4. KCCJの宣教の課題

コロナ19によって変わった世界は、既存の韓国及び日本の教会が抱えていた問題に加え、明らかにKCCJにも危機として迫ってくる。筆者はこの危機を、韓国語『聖書：改訳改訂版』で「試験」と翻訳されるギリシャ語peirasmósとして認識したい。つまり、この危機をきっかけに、我々が安住していたことに気づき、この時代における神のお召しに真心を持って応える機会としなければならないと信じる。具体的には3つの「試験」、つまり「テスト」であると認識して、次のように取り組んでいくことを提案する。

1) 愛のテスト：各自囚生か相互協力か

コロナ19によって引き起こされている社会的現象の中で、我々キリスト者が注目しなければならない状況は、経済的不平等の深刻化である。今年4月末、ハーバード大学のロバート・ライシュ(Robert Reich)教授は、「コロナ19が米国の階層間不平等をより鮮明にするだろう」とし、4つの階層に分けて分析した。第一が、「遠隔勤務の可能な労働者(the Remotes)」。第二が、「医療従事者、配送業従事者、工場労働者など「必須の仕事をする労働者(the Essentials)」」。第三が、「食堂やホテルの従業員など「収入のない労働者(the Unpaid)」」。第四が、「刑務所、集団収容所や保護施設、療養所にいる「忘れられた人々(the Forgotten)」だ。彼のこのような予測がかなり当たっていることが、アメリカの9月末の様々な経済指標から明らかになった。

KCCJもコロナ19の状況の中で相変わらず教勢を維持する教会、ある程度の打撃を受けたが維持できる教会、かなりの打撃を受けて今後教会の存廃の危機に瀕している教会、そしてすでに我々から忘れられている教会、牧師、信徒がいるだろう。

世界的な碩学ユバル・ハラリ氏は、「伝染病の本当の治療法は分離と差別ではなく情報との協力だ」と言っている。危機に瀕している日本社会、そしてKCCJが危機を克服する方法も、現在の危機に対する対処を各教会に任せるより、それぞれの状況を共有し、協力して一緒に危機を乗り越えることにある。我々は互いに愛し合う共同体なのか。それとも愛なんかはリップサービスだけで、結局のところ自分が生き残る道を自分で探さなければならない、各自囚生の群れにすぎないのか、ということがまさにこの時に証明されるだろう。



韓日対照讃頌歌販売



韓国の新讃頌歌版です。交読文も韓日対照で掲載されています。

- B6版変型・1483ページ
- 価格：2,500円(消費税・送料込み)
- ※お求めは総会事務所へ

講壇掛・ストール販売



在日大韓基督教会ではKCCJのロゴ入り講壇掛・ストールを制作・販売しています。価格は講壇掛・ストール共4色セットで各1万円(約半額) 講壇掛・ストール両方ご購入の場合は1万5千円です。

※お求めは総会事務所へ